

さかえ

教育特輯号



栄村公民館

資料提供：花開孚夫氏(つくば市金田)
編集：木村 滋

—(2)—

両親のわが子の教師であると言う考え方を持つて頂きたい。皆様の御援助で一步でも半歩でも、完成した人間に近づきたいと思えます。

○今の生徒は一般に、よく遊ぶがよく学ぶ方が足りない。意志が弱くて、意地をかんんで、負けざらぬで、こつこつ長い間努力を持ち続けられない。三十点でも零点でも、平気な顔で努力しようとしなない。洵に寒心に耐えません。家庭に於ても吾が子の学業不振の原因をよく調べて、参観の際教師と研究して頂きたいと思えます。

○学校参観の出席が少いことが問題になります。実際農業をやつておられては大変でしょう。私はお母さん方の服装が、余り立派すぎると思う。あのやうな服装で来るのでは気軽には来られません。これを平常着のまま、学校から野良へ、野良から学校へ来られる姿に改善できないのでしょうか。これが新生活運動ではありませんか。人間の美は、その職業の服装をしている処に、健全な美があると言われています。

○青年学級と公民館で実施される講演会で感じた事は一般に知識彼が乏しいことです。学校の教師の言う様

に、農民にそんな時間があるかと申されますが、映画ならば、わんざわんざつめかけるのに、閑がないとは申されますまい。講演を聞き、青年学級で基礎教養を身につけ、広いまなこで、世界を、又自分の足もとをみつめることが、例を農業経営にとつてみて、どんな時代が来ても、その時代に応じた農業経営が出来て、複雑な経済界を泳げるのではないのでしょうか。

私共の生活は世界に、密接につながっているのです。エジプト問題、朝鮮問題も、私共の衣食住、いや何人の運命にもつながっているのです。如何なる時代が来てもそれにしたがった発展の根源は、基礎的学問、文化(教養)を身につけておくことではないでしょうか。青少年は温育育ちでは、露地に出て枯死してしまふと思ふ。特に本村の人々を見て、先輩諸兄の力が偉大であります。先輩を凌ぐ発展をするためには若い時代をどのやうに暮すべきか、更に一段と青年諸君の自覚ある修養を希望致します。今回文部省、茨城県より本村の青年学級が研究校として指定されましたが、この機会に、全村民こそつて、青年の前途のために、強力な援助をしいかねばならないと思えます。「安物

全部をとりまとめて志願先高等学校校長宛に出します
④志願校を変更する場合の手続について

入学願書を提出した後、志願校を変更したい場合は保護者名の「志望校変更届」(新志望校名、志望校変更理由を記載する)二通を中学校長に出し、中学校長の副申書を添えて、はじめ志願した高等学校長に提出し、二通の中一通に、たしかに変更届を出したという証印をやらせて来て、之を新しく志願する高等学校に出す入学願書に貼りつけて、二月十五日から二月二十三日の間に出し直すわけです。これは次に提出する学力検査受検願よりも先に送さなくてはならないわけです。

二、学力検査受検実施について

入学願書提出後、志望校が確定した上で、受検願書を提出します。

①受検願書提出期間、

二月十五日(金)より二月二十三日(土)まで

②受検願書の手続について

定められた様式の用紙に記入し、学力検査手数量として、百円の茨城県収入証紙をはり、中学校長がま

とめて、入学願書を提出した高等学校校長宛に出す。

受検願書を受取った各高等学校からは「学力検査受検票」が受検者に交付されることになっている。

③学力検査教科

中学校卒業程度によつて、必修教科(国語、社会、数学、理科、音楽、図画工作、保健体育、職業家庭)の範囲で行われる。

④検査期日

三月一日(土)午前九時から午後三時まで

⑤検査場

入学願書提出先の各高等学校

⑥学力検査結果の通知

小期日 三月十三日

⑦中学校長宛にだけ報告し、知人には報告しない

三、報告書の提出について

①これは、中学校側で作成し、中学校長の名で志願校へ出します。提出期日は学力検査のすんだ三月五日から三月十三日まで

②内容は、中学校時代(一年、二年、三年)の成績性行、身体状況、其他のことについての内申です。

(6)

③報告書の取扱について

報告書の中に、学力検査の結果を記入する欄がありますが、之は高等学校側で記入する事になっています。報告書の中の学習成績と、学力検査の結果とは同等の割合で取扱うことになっています。身体状況は、修学不可能とみとめられる者以外は、等差をつけないとのこと。

四、其の他の事について

①入学許可者の発表期日

三月二十二日(土)正午

②第二次募集を行う場合には、三月中旬にその募集要項を公示するそうです。

③入学願書及び学力検査願書を提出した者の中で、病気が出来なかつた者に限り、中学校長の証明書添えて三月五日(水)までに改めて学力検査受検願書を提出した上で、志願校において、同校長の指示により学力検査追試験を受けることができます。

大体以上のようになつて居ります。特に今までと変わった点は、一人で幾つもの学校を併願出来なくなつた事

学力検査は入学願書提出校で行うこと、志願校変更

は入学願書提出後、一定の期間内に一度だけみとめられるなどの点であります。

入学願書提出が一番先ですから、御家庭内での志願校をお考えおき下さる様お願いします。学校側として、もう一度、総合的な模擬学力テストを行った上、何人々々よく御家庭と御相談致し、慎重に考えて、最良と思はれる道を遠ぶようにしたいと考えて居ります。出来るだけ、志願校の変更などしないで済むように、最初の志願校選択に特に重点をおきたいと存じます。おわかりにくい点は、どうも学校へお問合せ下さるようお願い致します。もう少しの処、どうも受検生の御家庭の皆様、受検生各自の実力向上に御力添の程を併せてお願いいたします。

こねこ

二年二組 小川 洋子

まだ小さいこねこをぎるに入れて、あきちゃんの家からゆらつてきました。私の家では、しばらくこねこがいなかつたので、みんなのづらしがつてよろこびまし

「なす車によつて学ぶ」という新時代の教育では、各種の特別教室を必要とするのでありますが、本校には玄関突当りを利用した「図書室兼映写室兼放送室」といつた、極めて環境の悪い一室があるのみで、誠に情ない状態であります。特に図書室の如きは、学校教育上、必要欠くべからざる重要な機能を果しているのではありませんが、現在のまゝでは徒らに蔵書数の多いのを誇るのみで、充分その機能を果すことは出来ません。普通教室の内にも、終日陽の目に当れず、雨天の日など読書にさへ困難する程の教室があります。

更に職員室は形ばかりの小室で、学校全体の連絡統制上、誠に不便を感じております。

なお運動場は、基準に従えば、小学校専用でさえ、約六段四畝の面積を必要とするに拘らず、現況は小中合わせて、約五段歩の狭隘さで、伸び盛り、あばれ盛りの子供達の体位の向上に影響するところは、決して軽くはありません。

以上本校の実態について概略申上げたのであります。現在のところ、最小限二教室だけは、是非早急に増築されなければなりません。村当局に於ても、着々

対策を考究中ではありますが、村民各位の深い御理解と御熱意により、一日も早くこれが実現の運びになれるよう、各位の御協力を、子供たちと共に念願して止みません。

お母さんの手

三年二組 島崎 或子

今日は、成人の日で学校が休みです。私はきのうの雨でたびをよこしてしまつたのでせんたくしました。手がちぎれるようにつめたいので思わずこたつに入りました。こたつに入っているうちに、お母さんの手を出しました。お母さんはゆつとさむい朝、早くからいつゆ水しごとをしております。お母さんの手はひびがされて、血がでていゝこともあります。それではお母さんは、「いたい」とも言はないで、いつゆはたらいているのですから、ほんとうにえらいと思います。またきのうにも思います。お母さんはあんな私や弟たちのためにそんな手になつてしまふゆです。これからはゆつとおてつだいをしなければなりません。そしてあた、かい春が早く来ればよいと思います。早く

来い。来い。さくらの花咲く春の日よ。お母さんの手
の花のようにきれいになつたらどんなにうれしいこと
でしょう

小感

中学校 猪俣 三郎

私達は絶えず理想をゆとめて生活している。そこに向上があるのである。理想を持たない生活は進歩も向上もみられない。しかし現実を忘れ現実を離れて理想ばかり追つてはいけない。どこまでも今日の生活を充実するやうにとめなければならぬのだ。

私は本校の中学校の現状について、これと同じやうに考えている。現在のまゝでは敷地や運動場の面からいつて教育上支障があるので、何とか改善したいという事は私達局に当る者は勿論、村のどなたもお考えになる点と思う。そして新築する場合には組合立の中学校にしたいと言うのが、大方の理想であると思う。

私も教育上から考えて是非そうしたいと願つていゝ。これからは組合立という理想を達するよう努力したい。しかし組合立の中学校を建てるのだから、現在

の校舎の修繕もやめ、設備の充実も中止するという様な事はまずいと思う。学校は現在生きた子供を教育しているのである。将来のことばかり考えて現在の子供の教育を忘れてはならない。現在の修繕のために相応の経費をおしまない事が必要である。私は将来の子供を考へるが、それにも増して現在学んでいる生徒をよりよくする事を第一に考へている。

今更申し上げる迄ゆない事であるが、事に一長一短を伴うものである。よい点がある反面欠点がないというわけにはいかない。組合立中学校の問題もこれと同じであると思う。組合立になるとよい点の方が多いと思はれるので、若し新築するしたら組合立にしたというのが、大方の御意見と思う。たゞ組合立中学でなければ中学校教育は出来ないのだという一方的の考へ方には不賛成である。本校も完全とは言えないが実験学校として生徒の学力の面に於ても相当の効果をあげていると思う。これももし組合立になつたらゆつと成績が上るだろうか。私は必ずあがると断言することはむずかしいと思う。又生徒指導の面に於ても反省すべき点はあるが、それ程心配する生徒はいない。

組合立になると他村の生徒との交渉がおこり、それだけ励みになる事は非常によい事である。小学校から

中学まで九ヶ年間同じ友達では刺戟があまりに少い。刺戟がないと交易になりすぎる。他村の生徒にまけまいとするところが責い事である。しかし生徒数が多くなると生徒の指導が徹底しなくなるという欠点は見逃すわけにはゆかない。それから組合立になるとよい先生が得られるという事もよくいわれることであるが、現在本校の職員はそろつて勝れている。組合立になつたとしても、現在以上の先生をよとめる事は困難と思ふ。かう考えてみると組合立になるとよい先生が得られるという、一方的の考え方には不賛成である。

私は本村のことを思い、本村の生徒の幸福を考える時中学校の独立校舎の建設を祈つてやまない。それは教育村としての伝統を持ち本村 文化村という誇りを持つ本村 教育に対して理解ある支援をおしまない本村ですので間もなく解決されるものと信じている。ただ私は現在の生徒をよりよく教育する事が、私共の責務でありますので、どのやうになるとしてゆ、安心して毎日の教育の営みに再念してゆく決心でございます。

学習態度と自習書

中学校 松井 泰雄



この頃感じていることの二、三を書いてみようと思います。先づ生徒の自発的な学習態度ですが如何に他から勉強をしいられても、生徒自身にやる気がなければ、学習の効果はあがりません。最近生徒達が自ら求めて勉強する態度が出来て来たことは、ほんとに喜ばしいことです。私達は何とかして一人、一人の生徒が自覚するやうに指導しておりますが、時々「あ、あの生徒は学習意欲が出て来たな、自覚したな」と感じた時の喜びは非常なものです。もう、しめたものだと思心するのです。そしてさうゆう生徒は成績もぐんぐんのびてゆくのです。未だ自覚のたりのない生徒もおります。そんな生徒を如何に指導すべきかは私たちの一つのなやみであり、課題であります。或生徒は、中学の卒業期まで何ら得る所なく過してしまいかゆしれません。そして社会に出てから気がついて、あわてる者もあると思います。「志を立つれば学中はなり」ということがあります。自覚し、学習意欲が

旺盛になる。そして今度は、勉強の方法をよく研究して時間を有効に使い 能率的な勉強をすることが大切であると思います。

こ、で自習書のことについて少しのべたいと思います。之は使用の方法を考えなければなりません、たしかに便利なもので、時間に余裕のない時にはちよつと簡単に調べる事が出来、いろいろ辞書を引くよりは能率的です。しかしやはり、國語とか英語は根気よく辞書を引いて、自習書はほんの参考程度にするのがよいと思います。ところが、自習書を丸写しにして、ノートにきれいに書きとつただけで、勉強おわりというやうに考えて、それで満足している生徒がおります。要点をつかんでいないのです。さうゆう「くせ」が学校図書を利用して研究する場合にもあらわれることがあります。先日も二年生の社会科の勉強で研究課題をあたえたところが、誰ゆたいへんくわしく書いて提出しました。その問題の中に、アルプス山脈、チベツト高原 ニューギニアランド コーカサス山脈 オビ川等地理的な問題もありましたので次の社会科の時間に、教室に世界大地図をかけて、それらの場所を指させ

ることを試みました。ところが、はつきりとわかっている生徒は数名でした。えなとも参考図書をまらうつしにただで終つてしまい、しつかりと理解して自分のものにしていないためでありましょう。

二年生で、自習書を持つている生徒数を、参考までにあげますと次の通りです。

國語の自習書を有するもの 四三名(六九%)

英語の自習書を有するもの 四五名(七二%)

要するに自習書の使用を全く悪いと私は考えませんが、その活用方法を研究することが大切です。

次に私達が、生徒指導の上に最も大きな困難を感じるのは、学力の個人差の大きいことです。能力別指導ということがかましくいわれ、その重要性もよく承知していますが、実際の授業は、ほんとうにむづかしいものです。二学期の試験に於ける二年生の成績は十一科目の平均点に於て、最高は八七点、最低九点であり、その間に六三名が入つておるわけです。しかし点数の上にあられた成績のよしあしは、第二義的な問題で、如何に努力するか、そして素直な生徒になるかということが、最も大切なことでありましょう。又

生徒一人一人は、何処かに長所をもつています。その長所を発見して、とんとんのびるよう指導したいと思ふのです。私達の願いは、自分の教え子が、よい日本人となつてくれることです。共に次の時代の栄村を、次の日本を、担うべき生徒を指導することは、実に重大な任務であり、又この上ない喜びであります。



めんよう

四年二組 岩瀬 栄

私の家には、めんようが一びきいます。

私は、毎朝めんようを外に出して、草を食べさせてから学校に行きます。学校へ行く時はめんようの頭をなでてやるとさゆうれしそらに「メーメー」と鳴きますそれから毎日私はめんようのそばへ行つて見ると、やさしい目で私を見ていました。私はめんようがかわいくなつて草を食べさせてやつたり、水をくんで来て飲ませてやつたりしました。

ある日私が朝早く起きてめんやうのそばへ行つて見たらめんようは鳴かないで、小屋へ入つたきり動きませんでした。私はおどろいてお父さんをよばつて来ま

した。お父さんがめんようを立たしてみましたが歩くことは出来ませんでした。夕方になつて松塚のおいしやさんをよばつて来てしんさつしていたがいてくすりを飲ませました。めんようは少しけんきついで来ましたがやはり歩けませんでした。「あしたの朝までにはゆつと元気づげるだろー」とおもしろいやさんが教えてくれました。

あすになつて、おとなりのおじいさんが「めんようばはおつたかね」と来てくれました。おじいさんの顔は心配そうでした。そんな日を毎日毎日すこしてゆきながらめんようはだん／＼なおつてきました。

すつかりなおつてから、私はめんようを連れて畑に行つておいしい草を次々と食べさせてやりました。私はめんように時々こんな事をい、ました。

「めんようよ、お前はとうして病気になるのだ」それから言うものは、めんようは元気でうれしそらにメーメーと鳴いています。

|| 児童作文 ||



中学三年間の回顧

三年 飯島 英吉

日本の國勢は終戦直後の混乱期から徐々に立ち直りつ、あつた。丁度今から三年前の春、私達は希望にゆえて、栄中学の生徒として、入学したのであります。が、星霜の流れは夢の如く、はや、卒業を目前に控える頃となつてしまつたわけであります。私達にとつて無事三年の課程を終え、卒業式を間近に迎えることが出来るのは偏に諸先生の御懇篤なる御指導と、村内の皆様の中学教育に対する深い御理解と御援助の賜と深く感じて居ります。胸中に大なる抱負を秘めて入学した私達に対してその抱負を実現出来るように日常の生活に、大きな目標と御指導を与え手びいて下された諸先生の御力を今更のように、しみじみと感ずるのであります。ゆう一つ私達が忘れてならない事は、私達の学習が、いかに恵まれた環境の中で行つたこと、ができたかということであり、本校には、他校に現在見られない、秀れた放送施設があり、校内の連絡は勿論、ラジオによる放送授業や、クラブの活動として放送

劇を行うことまでできました。私達が理科の学習の中で一ばん正しく勉強できる方法は、実験をすることです。実験をするには色々な道具や設備が必要ですが、これら村内の皆様のお陰で大部分整えていた、ぐくことができました。中でも私達の学習に一ばん良い影響を与えてくれたのは図書室が充実されて来たことであり、す。書籍の数は次第に増加され現在もふえています。す。すでに巻千二百冊近くつまれるに至つています。

後輩のこれに多大な恩恵を受けることでもあります。一方運動の方に反省の目を転じますと、本校が狭い運動場である為、この三年間、私達生徒の体力が十分に鍛錬することができなかつたのであります。殊に夏期熱浪中で行はれた西部六ヶ村連合運動会に於て、本校長年の伝統を破り本校が最下位の成績であつた事は、栄中学校の最上級生として私達は非常に責任を感じて居ります。現在までの校庭であつても私達の先輩は、運動の方面でも立派な伝統を築いて行かれたのであります。故を申しますと、近隣の村三ヶ村ぐらいの中学校が併合され組合立の中学校ができれば、校庭の広さの事も解決し、一方学習の方面でも他校の生徒と竟



文章のあるべき姿

小学校 渡辺 信雄

い合い、刺激しあつて勉強することができるので、一
 そう各方面に発展できる事と考えます。しかし私達の
 三ヶ年の生活環境は他校より恵まれてゐること教段の
 聞きがあると思ひます。この恵まれた環境の中にあり
 尊い諸先生の御教導を仰ぎつゝ、学んだ私達は、入学当
 時、だいて居りました抱負の半ばも達成しないうちに
 はや、卒業の時を間近にし、今更に光陰矢の如しとか
 少年易老学難成 一寸の光陰不可軽……という漢詩の
 一節が私の頭を鋭く貫き過ぎて行きます。こゝに私
 は間もなく卒業する三年生の代表として、諸先生 並
 びに村内の皆様へ三ヶ年間のお礼の言葉を述べたいと
 考えますが、これは雲にそびゆる富士より高く、海の
 の底知れぬ深さと等しいものでありますので、何を以
 て謝し、いかにして応えてよいか、その術を知りませ
 ん。たゞ 今後 本校卒業生として、本校の名譽と品
 位を失はぬやう努力することを誓うのみであります。

明るい民主日本の生活環境に於ては、個性に満ちた
 、自由な文章が生まれなければならぬ。では新しい
 時代の、生命感に満ちた自由な文章とは何う少し具体
 的に言へばどういふものであるか。文章の目的は内
 なるものの表現であるから、まづ相手にあるがまゝに伝
 えられる様な表現にする。即ち納得させる様に書くとい
 うことが大切で、判りのよい文章であることである
 作文の根本的努力はこの為には拵われなければならぬ
 い。これには形式はともかく第一に内容に従つて文章
 を生み出すという行き方をしなければならぬ。次に
 は的確な表現であるべきである。即ち場合にびつたり
 した、抜き差しならぬ文章であることが大切である。
 自分の内にあるものを一度筆をとれば、止むに止ま
 れぬ勢を以て奔出しようとする。これを正しく深く捉
 え、各自の一番よい発想法を選んで、最も的確なゆ
 ぎのない表現を探る様に工夫することである。
 このことについてフランスのモーパッサン曰く「我
 々のいおうとすることがなんであろうと、それを表
 現する為には、只一つの言葉しかない」といつてい
 る。次に生きた生きた訴ふる力のこめつた表現を

することである。一体われわれは言葉を用いて表現す
 る場合でも、繰返してみたりある部分を省略してみたり、
 調子を強めてみたり、順序を逆に見たりとい
 う風に異常な言ひ方をするのが少くないが、これら
 は強く訴えようとする努力が自然にさせる工夫である
 。まして文章は言葉と違つて多数の人々、長く後ま
 で伝えるところに特質があるのだから、その為には万
 人に感銘を与えるものであることが必要である。

細かなものをあげればまだまだあるが根本的なもの
 はまずこの三つであらう。こういうわけでこの三つの
 條件になつた文章こそ、今日の時代に於ける正しい
 姿の文章といふべきであらう。われわれは如何なる文
 章を作るにも、読むにも常にこの三つの角度からの留意
 を怠らないようにして当らなければならぬ。この根
 本を確立すれば、いろいろ細部の作法は容易にその
 要領を得られると思う。

児童の作文を読んでいた、くに當つて文章のあり方
 についてのべたのであるが、はたして児童の作文の中
 にこれら三條件の芽生えがあらわれているか、どうか
 御覧になつて御考えを頂き度い。のせられた作文は去

る校内作文コンクールに於て佳作として選ばれたものである。



追悼法要を兼ねて 思出の同窓會

「思えば歳すでに六十、余生長きを保し難く、時に斜
 陽落莫の感なきを得ません。それにつけても、その昔
 、学窓に結ばれた幼な友達こそ一入懐かしく思はれま
 す。就てはこの際、お互に生きる喜びを祝福すると共
 に、童心に帰つて昔語りに打興する日を待ちたいと存
 じます。尚その機会に当時お世話になつた亡き先生方
 の法要を営みたく、当時の腕白小僧等相つといて在り
 し日の音容を偲び合ふことを知つて下さつたならばさ
 をかし地下の靈も微笑んで下さるでせうから」といふ
 訳で、集まるもの、栄 九重 栗原 葛城 の老年層
 及本村出身の東京 土浦の在住者諸君合せて三十三名
 今日概ね白髪禿頭、しかも「是昔紅顔美少年」違た
 即ち明治四十、四十一、四十二年の栄小学校の卒業
 である。残雪を踏んで米会する人々の中には四十有餘
 年振りに相見るものも少なくなかつた。時は二月九日
 (陰曆正月十四日) 栄村公民館階上の一室は春にさ

きかけて和氣鬨々の談笑に彩られた。

蓋さぬ敏談に名残を惜しみつゝ、一同打揃つて日輪寺へ。式は故豊島元凱 同高林昌世 同学之、元 三先生之恩願を想ふ司会者の挨拶に始まり、懇ろな説経焼香 ついで遺族、豊島 保、学之 詮、両氏の感激に満ちた謝辞など簡素ながら嚴肅にしかも懐旧の情味豊かに行はれて恩師を偲ぶに相応しい法要であつた。終つて会場を変へての懇親会に汲み交す酒杯に満ちた歓喜こそ、幼き日のその振に人々の胸に刻まれたのではあるまいか (下村生記)

(17)

「東京」飯島好一「土浦」本橋 盛、学之 詮
酒井要蔵 豊島 保、酒井千次郎 「葛城村」中島 謙 「九重村」細田昇一 栗山真之、久松善富
宮本忠輔「米村」宮本廣次 沼尻英亮 菊池民雄
沼尻昌雄 豊島武雄 豊島 享 田村辰雄 酒井栄太郎 酒井安三郎 上方要範 黒田芳助 久保田璋一、鶴見 清、本橋浜之助、本橋清一郎 竹中清治 岩波作一郎 久保田隆助 飯島清八 銭谷森三、飯島龍一郎 中島誠一郎 以上

思春期の心の動きとその指導

中学校 市村 芳男

私達大人は、思春期の頃を忘れて、唯青少年を批評にのみ終つてゐる。靜かに過去の心のうごきを反省し、若人を正しく導いて頂きたい。青年期は普通十二才頃から二十才頃まで、時には二十四、五才までも含めることがある。この頃は、親兄弟教師、大人に対する反抗や自尊心が強くなる年頃です。この時代を大きく三つに分けて、青年前期、青年中期、青年後期と申して居ります。中学生は前期に属して、心の動きの激しい色々な年頃です。家庭、学校、社会が十分この年頃の身と心の発達を理解して、慎重に指導に當らねばなりません。大切な問題ですが、俄面の都合で簡単に述べて、皆さんの関心を深めたいと存じます。

中学生時代に、身体上に又、意識の面に性的な特徴が表はれて来るが、性に関しては、昔から、世界的に口にするのは、卑しいこと、けがらわしいこととしていましたので、年頃の少年少女は、当惑と心配とを経

(18)

験する。ノソボ、デブ、チビ、あざ、風采、服装等を氣にかけ、身体的性の特徴に対する不安等少年少女の小さい胸を痛めている。これに対して、適当な教育がされない場合には、不正確な知識によつて、情緒が喚起され、根せつな興味に包まれて、今日の新聞記事の種を生む結果になる。性に関する教育はどのようになら良いか、難問題ですので、その実行は種々の困難さと、危険が伴い易い。人格的、職業的、年令的に成熟された指導者によつて、率直に、正確に、学問的な用語で、学問的知識をあたえ、自分の性的変化に、当惑、狼狽、不安がなく受けとれるように指導する。

学者の研究によれば、中学生時代に相当数の者が性的空想にふけるそうですから、環境、読物、友人、持物などについて、両親は常に注意し、学校は他人の指導と、一般指導の両面を慎重に担当すべきだと思ふ。

本校はこの点、岡田校医先生の医学的立場から、御指導を頂いて居りますので、非常に恵まれて居ります機会がありましたら、更に岡田先生より具体的指導についてお伺い下さい。



学校給食と子供の健康

中学校 石田 良子

新しい年を迎えて考えられることは、國の平和と子供の健康で、口に出さぬも樂しみは、伸びる我が子の姿であると思ひます

子供の成長を見、親は自分の年を振り返る程に子供の成長は目立ち、殊に中学生の頃は一年と申されず、一日がめにつくようです。すくすくと伸びる体を見て一年より二年、三年と本當に育つ体にびつくりさせられます。

新しい村に育つ、兼中学校の出席率は良い成績で、病欠はほとんど見られません。保健教育がさげばれて居る最近、これについて自慢出来ると思はれます。健康な体を不健康にしない。抵抗のある体より体位の向上を考えて、明るい生活の文化村の目標として、食生活の改善、保健衛生も重視される訳です。

食生活の改善と言へば、むづかしく思はれますが、我が國の食事の欠点を見ると、胃腸障害、と結核患者

の多いことを見て、考えを新たにいたしたいと思ひます。今までの満腹の習慣を、少しづつなほし、胃の御苦労をかるくする為、栄養を充分にとり、偏食をなほすことを、生徒に習慣つけるように、学校給食も常に考慮されて行はれてゐます。

食べることばかりで無く同じ環境で同じ食事をする事は、子供達の卑屈をなくし、民主的な明るい社会性を養ふ事等、学校給食も教育の一端であります。

ともすると、私の家では充分食べて居るから学校給食は必要ないと、お考えの方もある事と思はれますがより体位の向上を見、栄養を補充し立派な社会的精神を養う点に於て、学校給食を重視したいと思ひます。

是等の大切な事を受持つ学校は、限られた時間と手不足に、充分な事も出来ない事を痛感して居ます。村内の充分な御理解のある、御援助を頂きたくお願ひします。

（19）
現在毎週に、三回行はれ中学校は、火水木土曜日に割当り、冬季中は晝食と一踏に温かいお汁物を作り、土曜日はミルクコーヒを、又月には二回位何か特別

に美しい物を出すように献立の計畫は考へて居りますが、設備や手不足のため、充分満足の出来る給食を行えぬ事が、非常に残念に思はれます。强健な子供を作り上げる為には村当局並に父兄の皆様の御協力を望みます



考えてみましょう

小学校 酒井 邦夫

終戦後、みなさんも御存じのように、日本の教育はアメリカの新教育とゆうものを全面的にまねをするようになりました。講和後の日本は、主権が認められ新なる歩みが出来るわけでありませう。これは國民の等しく喜びとするところでありませう。

次の一節は矢川氏の教育思想であります。大学の教授をして居る学者達の中に、アメリカの進歩派とゆう一派がやつて居る教育のやり方以外には、正しい教育のやり方はないとゆう理屈をこねた人もあります。又そうゆう流行にうまくのつかる書物を書いて、大儲けをした本作りもありました。そこでその現場の学校で民主主義的なよい教育をしたいと眞心から願つていた良心的な教師達の中には、そうゆう学者や本作り

（20）
の影響を受けて、いわゆる新教育に眞剣に手をつけた人々もあります。その企てに熱心に打ちこんだままり過勞になり、病氣になつて死んだ人もある位でした。つまり、そうゆう教師達はパンを求めたのに石を与えられたと言つてよい、でしょう。

そうゆう新教育とはどんなものでしょう。同じ新教育といふまでもそれぞれに少しづつ、は違つた色あいをゆつていますが、それと共に共通なくつかの特色もありません。そうゆう特色の中でも大事なものとされている点は、子供の興味を第一に立てるとゆうことです。子供が実際の生活へそれを生活経験といひます。上でどうゆう事を一番面白がるか。どうゆう事をやりたいと思ふか（それを欲求といひます）。つまり、子供の興味や欲求を教師はさぐり当て、そうゆう興味や欲求にうまくお調子を合せた教育をすべきである。

とゆう教育こそ、子供の人格を重んじた民主主義的な教育であるところなのです。ところでその方面のある理論家は、どうしたら子供がうまく掛つてくれるか、とゆう事が教育計画のねらいであると説いたことがありますが、それでは子供は、まるでうまい餌にかかつて

釣り上げられる魚みたいです。こちゆう考え方の新教育によりますと、読み、書き、算、とゆう基礎能力を子供達の身につけさせてやる教育がおろそかになり勝ちです。何故かとゆうと、読み、書き、算の訓練はゆともとは子供達が面白がるものではないからです。

子供達にとつては、あれやこれやと自分達の興味の移り変りに応じて遊びとゆう餌の方にこそ、よりよくなかつてくるのであります。アメリカ式の新教育とゆうものは、およそ右の様な考と、資本主義にとつて邪魔にならない程度の社会の要求とをうまく結び合せてその教育の事です。教育は社会の動きにとむなつてその社会の要求を満すものとなるべきものである。これを充分理解して次の時代に備へるべきである。

以上が矢川氏の新教育への見方であり、読者諸兄はこの様な見方に対して批判し、現在の教育に強い考を持つたなら、眞理を得る事が出来るでせう。

教育は教育者のみによつて出来るものではありません。

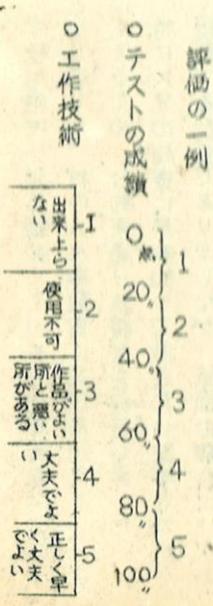
通信誌の見方

中学校 松井 恭雄

学校教育は学校や教師の努力のみによつて満足な成果をあげることが出来ない。社会や家庭の協力は絶対に必要である。特に家庭の協力は何々の生徒の指導に欠くことの出来ないものである。この様な学校と家庭教師と両親との連絡と協力をほかるための一つの手段として通信誌がある。

扱て現在使用されている通信誌に記録される5、4、3、2、1の5は最上4はやや上3は普通(標準)2はや、劣る1は最下を示すのであるが、之は各教科についていろいろな再度から目標及び一定の基準を定め、それに基づいて評価するのである。そしてむかしならば教師は5の成績の生徒を多く育てることに重点をおいたろうが、新しい考え方は「優等生教育」ではなく3(普通標準)の生徒を多くすることに努力する。この評価法にも次の様な難点がある。①学校差や学級差の存すること。②何人の発達や努力が表現出来ないこと、例えばAという生徒はあまり努力をしないで5の成績を得た。Bという生徒はAよりの二倍も三倍も

努力したが標準以下の成績で2と評価された。しかしそれがBの能力の最大限で彼としては大成功であると考えられるやうな場合にはBの努力をみとめて大いに賞讃すべきである。先日の中学校に於て耐寒マラソンを実施したが一人の落伍者もなく全員力走した。その結果入賞した生徒は相当の練習もつんだらうが体力がありらくらくと走っているようにもみられぬお余力を示すものさえあつた。しかし一番最後にゴールインしたらたという生徒は始めから終りまで同じ調子で途中一度も休むことなく、くるしさに打ちかたて走りつづけた。到着の順位は一番最後であるから、之を評価するならば1と判定されるであらう。だが彼が全力をつくして走りつづけた精神と努力は賞讃されるべきで、彼に敢斗賞があたえられたことはほんとうによろこばしいことである。



小学校へ入る子供の名前 四四名

上境	花坂 靖彦	長沼喜久江
酒井はつえ	笹原 洋子	横 町
酒井 俊秀	土器屋一区	松岡 和枝
酒井 重雄	大山とし子	金 田
露久保のぶ	寺島 督	諸井 昭子
塚田よし江	土器屋二区	黒田 清
多比良由貴	島崎 好子	岩瀬千代子
斉藤 庄二	増山 弘	市村 敏江
中 根	松 塚	高木 賢造
岩波 利江	久保田ふさ子	岩瀬 秀敏
本橋 博	久保田勝子	石島みさ子
平島 静男	久保田 勝	宮下 秀一
本橋 義夫	沼尻 昭彦	古 来
高梨 栄子	坂 義 満	菊池 みつ
里見 勝江	大	宮 本 章
井坂 礼子	塚本 新也	吉 瀬
本橋 進	酒井 晃	上 方 弘
大津 幸子	酒井マリ子	中島五十二

編輯後記

学校も愈々一年の締めくくりをつける大切な学年末となりました。村の人々の教育に対する逞ましい心構へに感ずるため、お約束通り特輯号を発行しました。特に父兄の皆様には是非知つて頂きたい記事を選りたく掲載する計画でありましたが、紙面の都合上、次の機会にゆずらねばならなかつた点、お詫び申します。産業の発展も文化の向上もすべて教育が本であります。村をあげての御協力を切望する所以であります。

『さかえ』 第二巻第十七号

昭和廿五年十一月三日 創刊
 昭和廿七年二月廿四日 印刷
 昭和廿七年二月廿五日 発行

編輯人 栄村公民館弘報委員会
 印刷人 土浦市中央町九一九 かすみ 騰 守堂
 電話(三)四八九番
 発行人 栄村公民館長飯島吉亮